

日時：令和3年7月15日（木） 午後6時～7時30分
方法：オンライン及び尼崎市役所北館4-1会議室

○事務局

皆様、お待たせいたしました。福祉課長でございます。

定刻になりましたので、ただ今から、尼崎市社会保障審議会地域福祉専門分科会第5回計画策定部会を開会させていただきます。

委員の皆様には、公私とも何かとご多忙のところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

本日の会議については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoomにより開催させていただいております。

では、これより議事進行につきましては、部会長にお願いしたいと思います。部会長、よろしくお願いいたします。

○部会長

これより、議事進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

では、資料1を見ていただきたい。第4期地域福祉計画の基本理念（案）というものです。「誰もがその人らしく安心して暮らせる地域福祉社会の実現を目指して」という一文がありますが、これが第1期～第3期まで、この地域福祉計画がバトンを受け取りながらやってきたもので、私は第3期からバトンを受け取った形です。

今回、皆様から素晴らしい意見を沢山いただいた。この内容を表すような形のテーマについて議論していただくという事で、お手元の資料に各委員の意見がまとめられています。色々な意見を出していただきましたので、この機会を使って特に強調したい部分があれば強調していただければと思います。

資料をめくっていただき、右下にP6とある一番上の部分で「⑤誰もがその人らしく安全・安心にともに支え合う地域共生社会の実現を目指して」という事務局案が素案の段階で送られてきた。これはこれで素晴らしい内容だと思ったが、これだけ出してしまうと委員の意見が出にくいだらうという事で、私から4つの案を出させていただいた。

1つ目の案としては「①誰もがその人らしく安心して暮らせる地域福祉社会の実現を目指して」、3期まで死守してきた基本理念を変える必要があるのかという問題提起のために作りました。2つ目は、「②誰もがその人らしく安全・安心に共に暮らせる地域福祉社会の実現を目指して」これは共生という言葉を入れていませんが、「ともに」を少し入れる形で、現在は「共生・ともに」がキーワードになっていますので、入れさせていただいた。③、④はダミー賞が出ているが、「③誰もがその人らしく安心して暮らせる人権文化のいきづつまちづくりを目指して」、この尼崎市人権文化というのは尼崎の言葉でもあると思いますし、人権文化というものを非常に大切にされているという事もあるので、条例からとった。そして、「④誰もがその人らしく安全・安心に暮らせる創意工夫のある地域共生社会の実現を目指して」、創意工夫というものを「尼崎市民の福祉に関する条例」からとったという形です。

皆様の意見が沢山出てきたので、今から少し、簡単にテーマの作り方を、パワーポイントであと1～2分お話をさせていただきたいと思います。

まず、今回は理念を変えるか変えないかが第一の大きなテーマです。今まで第1期～第3期までバトンを受け取ってきた「地域福祉社会」を「地域共生社会」に変えるか変えないかが大きな議題の1つ。両方とも色々な意味が入る良い言葉ですが、逆に言えば各委員さんが突っ込まれている曖昧で分からないという意味合いを持つ言葉でもあります。「地域福祉社会」を「地域共生社会」に変えるという1つの流れ、一種のモデルチェンジをするかしないかを、皆様と議論していきたいと思います。

それから、第1期からのコンセプトの死守。実は、地域福祉計画・地域福祉関連計画につきましては、日本中の各自治体を見たが、例えば20年間全く変わっていない所もある。神奈川県などは、特に死守する自治体が多く、少しずつ微調整をするような、例えば今回でいうと「安全・安心」にもう1つ何か入れるような微調整をしながら、20年前に作ったコンセプトをずっと守っているということもあります。

それから2つ目、法改正に合わせて全面改定するのか、また、その必要性について。これは、皆様あまり馴染みがないかもしれませんが、社会福祉法という私たち社会福祉に携わっている人間にとって憲法に近いものが改正され、地域福祉や福祉のコンセプト自体が思い切り変わってしまった。

今までは、社会福祉は行政がメインでやっていたところを、共に、もしくは一緒に、平等の視点で、多様性も受容しながら、というコンセプトが入ってきている。逆に言えば、この法改正に合わせて変えるというのも1つの方法である。多分色々な自治体がこの法改正に合わせて変わってくるのではと感じている。そして、皆様からの意見にも、尼崎市の地域性がこのテーマには出ていないのではないかという意見があり、その通りだと思う。他の自治体でも通用するような文言ですので、尼崎市の地域性や尼崎市らしさをオリジナルな単語で入れていくべきではないかという声も委員の皆様からいただいています。

それから、これまでの経緯と背景因子との整合性。地域福祉というのは歴史があり、尼崎市にも長い歴史がある。その歴史とやってきた事が合っているのか。委員の皆様の見解を全て細かく読んだが、この言葉で今までやってきたことが表しているのか、というような心の訴えを私は感じ取ってしまった。絵にかいた餅的な内容にするより、今まで尼崎市が少しずつ構築してきた地域、もしくは地域福祉の中での因子が含まれた言葉なのかがポイントになってくると思う。法律が変わったからそのコンセプトを使う、それが尼崎のやってきた事とあまりにも違ってくると、それはテーマとしてどうなのか、というのがある。

それから、「共生」、これは1つのキーワード。「共生」という言葉は社会福祉法の改正によって出てきた言葉だが、実は尼崎は30年前から「共生」という言葉を使っている。尼崎市社会保障審議会委員長から30年前にいただいた本が「共生社会の創造」ということで、尼崎市の活動をベースにして作られた本なのですが、その時から「共生」という言葉は尼崎からでていた。これが障害者福祉の方でバトンが繋がってきたようだが、元々は尼崎の中では「共生」という言葉があったというのも1つポイントになってくると思う。

それと、社会福祉法の改正の中では、今回の文言には私も入れていないが、「共生」以上に文言として出てくるのが、「地域生活課題をきちんと解決してほしい」と政府が各自治体に言っている内容

です。この「地域生活課題」というのは各自治体によって違う。その地域の地域性に応じて生活課題、生活問題は違う。尼崎には尼崎、他市には他市の生活課題がある。だから、その生活課題にどう照準を合わせていくかが1つのポイントになってくるのではと思っている。

それから、重層的支援体制。これはまた別の所で議論されているようですが、縦割りを排した形でのしっかりとしたネットワークやチームケア的なことができるのか、もしくは1つの家庭にも3つ4つ色々な問題があり、それを色々な所で重層的に支援ができるのかという意味があると思うが、これも実は社会福祉法の改正で出てきている内容です。

皆様から本当に良い意見もたくさん出ており、事務局もどう整理しようかとおっしゃられていますので、少しその辺りはコンパクトにまとめていただいている。特にこのテーマについて意見をいただき、不要な言葉や必要な言葉についての意見を追加資料1に整理している。これに基づいて、各委員の意見をお聞かせいただけないかと考えている。

○委員

個人的に、いただいているのが僕の意見とあまりストレートではないですが、案①の「安全・安心」という紋切り型のフレーズはやめた方が良くと思う。「安全」をつけることによって非常にイメージが悪い。今までの「安心して暮らせる」で何が駄目だったのか。「地域福祉社会」も「地域共生社会」も言葉が長すぎてイメージが沸きにくい。「共生社会」や「福祉社会」などにして、最後に「あまがさき」と平仮名で入れる形にするのが分かりやすくして良いのではないかと。

元々、3期まで変えずにやってきたというが、この基本理念について市民に浸透しているかと言われると全く浸透していないと思うので、今のものを微調整して耳馴染みの良い感じにする程度で良いのではないかと考えている。ただ、これも私見ですので、役場の方や他の委員の方との多数決でこのようにするとなるならそれはそれで良いと思う。私も40年以上尼崎市民をやっていますが、「安全・安心」「地域共生社会」というのはどうなのかなと思っている。

○部会長

すごく嬉しい意見でした。やはり、40年以上の中でこのテーマ自体が浸透してないというのと、ある意味では何をしてもこのテーマは合うと思うのですが、逆に何をしていたのかと突っ込まれた時に少し包括的すぎるようなテーマですので、そのようなご指摘は非常にありがたい。

○委員

私は大きく2つある。1つは、「地域共生社会」という文言を入れる事自体について。部会長からも問題提起がありましたが、私自身は、使う事そのものに反対していないが、あまりにも、国の政策的なものとしてどの自治体も使われ始めているというのが気になっている。本当は、「地域共生社会」という言葉をさらっと書くものではないと思う。共生できていない現実をどう捉えていくのかしっかり説明を入れていかなければいけない事項ですので、言葉としても、共生できていない現実をどうしていくのか、というのを、理念や現状・課題の所でもしっかり書いていくべきことではないのかなと考えている。マイノリティの問題で、高齢者や障害者だけではなくて、外国人の方や依存症の方など、地域で「共生」とは言っても現実的に分断されていたり孤立しがちな方の課題に全

面的に取り組むという意思表示で、あえて出すのであれば、そのような言葉を足した上で載せることに賛成します。

2つ目は、以前の計画の時も発言した記憶があるが、尼崎市の自治のまちづくり条例の理念にある「市民自治と参画」や「公民協働」は、尼崎の市政として中核にあるはずなので、地域福祉計画の理念の中でも一番重要なこと。住民主体という言葉は、市民自治と参画や公民協働を基本理念のキャッチフレーズの中に入れなくても良いが、構成要素の説明文の中には入れていただきたい。

○部会長

「共生社会」という言葉は色々な自治体で使っていくと思います。それによって使わないという形ではないが、使うなら使うでその意味付けが必要になってくるのかなというのと、市民自治と参画という言葉ですが、特に市民自治という言葉は元々尼崎に関わる前から尼崎はそういうまちなのかなとよく記憶していた。参画や公民協働というのは委員になってからよく耳にする言葉だったが、住民主体といいますか、主体的に動いている尼崎を表す言葉としてははすごく最適な言葉ではないのかなと思います。

○委員

部会長からご説明いただいた中であつた通り、そもそも変えるのか、という部分において、あまり強く変えなければいけないとまでは思わなかったが、意見を出し合ひましょうという事でコメントさせていただいたものを取りまとめていただいている。

言葉の言い回しをいじっているだけの部分もあるでしょうし、これまでのものがしっかり具現化できていないのであれば、ことさら変えない方が良いという考えも大事かなと思う。サブタイトルをつけた方が良いという意見もあり、わかりやすく馴染みやすいタイトルを入れると決まるのであればその方が嬉しい。

頂戴している事務局案に対してのコメントとしては、あまり難しい言葉を連ねない方が良いのかなというのが一点。「誰もがその人らしく」という言葉が「分をわきまえろ」というような悪乗りした言葉として使われる局面があると以前にお聞きしたので、「お前らしさはこの程度だ」というように誰かが決めつけないようにすること自体が住民自治の形だと思い、「互いを尊重し」という先祖返りしたようなフレーズに言い換えてはどうかとコメントさせていただいた。

第3期の説明にある通り、「安全に暮らすのみならず安心して生活していきましょう」ということで「安心」が残っていると思うが、「安全」と「安心」をセットにするのは、単に心持ちが安心だなというだけでなく、客観的に見てもしっかり安全が担保されていることを求めていることだろうと思うので、「安全」と「安心」という言葉をセットにするのも1つの形かなと思いました。

「共生社会」というのは私も肌触りの良い言葉ではないような気がしましたが、逆にフックをきかせるといいますか、次の説明に繋がるような形で埋め込んでおいても良いのかなと思った。

○部会長

私も委員の意見を聞いてなるほどと感じましたし、私の人権感覚の中で気付かなかった点のご指摘だったと思う。「誰もが」が与える意味合いが委員のご指摘いただいた中に入っていると思います

し、「互いを尊重し合い」というのはすごく良いフレーズ。これを使えば、ある意味「共生」という言葉もいらなくなるのかなと思えるくらいの形で、今後に向けてのスローガンもしくは今まで尼崎がしてきた経緯も含めて、そのような要因が重要だなと考えている。

○委員

私も書かせていただいたものと同じですが、このような目標はだらだら長く書いてしまうと結局何を言っているか分からなくなってしまう。学校でも学校目標などあるが、どんな目標かを聞いても誰も言えないようなものもあり、なるべくわかりやすい言葉で市民が理解できるような言葉が良いのではと思う。そうすると、「地域福祉社会」や「人権文化」など曖昧で分かりにくいものが「共生」という言葉に変えられると、あまり意味は分からないが地域で一緒に生きていく社会という事が漢字を見ればなんとなくイメージがつくのであれば、その文言の方が良いのかなと思う。

先ほど言われた「安全・安心」のセットですが、「安全」と入れておくと、色々な意味で、コロナや災害の事も網羅できると思うので、「安全・安心」は入れておいても良いのではと感じた。そして、「その人らしく」という言葉も、そのような捉え方もあるのかと感じたので、その辺りは今言われたような文言でいくべきなのかなと思った。若い人からお年寄りにまで示したい言葉ですので、なるべく難しい言葉ではなく、分かりやすい言葉の方が良いなと感じた。

○部会長

ダイレクトな表現であまりだらだらと長くなく、というのが、私達もわきまえないといけなと感じました。それから「安全・安心」の「安」という言葉について、以前国語の学者に聞いたことがあるが、この「安」という漢字が意味を表している中に、昔から人々に安心・安全というようなメッセージがあり、中に女性が入っているのも意味合いがあるそうで、このような形で、地域福祉や色々なスローガンに使われることもあるそうです。この「安全・安心」が並んだ時の意味合いも今後出てくるのかなと。そして、委員が書かれたように、コロナ禍ゆえにこういった文字の持つ意味も新たに出てくるのかなと感じる。

○委員

「地域共生社会」という言葉は非常に重要だなと思うが、やはり一般の方が聞かれて少しわかりにくい言葉ではないのかなと感じた。「ともに支え合う」や「安心して暮らしていける」など分かりやすい言葉に変えていただいた方が浸透していくのではと思い、意見を出させていただきました。「地域福祉社会の実現」という言葉を、第1期～第3期まで使われているので、そのままお使いいただいても良いのではというのが私の意見です。

○部会長

「地域共生社会」と「地域福祉社会」の違いについて、事務局に聞きたいと思いますが、その辺りの言葉のチェンジというののもどのような必要性があるのか、問題提起していただいていると思います。

○委員

皆さんの意見を見させていただいて、私もわかりやすい言葉を使用した方が良いと思う。「地域共生社会」という言葉が通常では使われない言葉だと思うので、先ほどもおっしゃられたように「お互いに支え合う」「共に生きる」というような言葉にシフトしていった方が分かりやすいのではないのかなと思う。

○委員

私は、サブタイトルをつけたらどうかと。そのサブタイトルで易しい言葉で表現できれば良いのではと思う。私が好きな「1人はみんなのために、みんなは1人のために」という言葉なのですが、そのようなサブタイトルをつけていただければと思っている。

どうしてもこのような文章というのは堅くなるが、できるだけ易しい言葉を使って書いていただければ、読んだ人にも分かりやすい。いわゆる庶民感覚で読んで一般の人でもわかるような易しい言葉遣いを随所に入れていただければ、より馴染みやすいものになるのではと思う。

○部会長

「One for All, All for One」ですね。ラグビーの理念に近い形だと思いますが、ある意味では「共生」を表しているのかもしれない。「共生」を少し言い換えていただいたような形にも思えますし、やはり長年尼崎で地域福祉をされてこられた委員がおっしゃられるとすごく重いですね。尼崎の地域福祉の活動の中で培われた言葉だと思うので、これも尼崎らしさを出されているのではないかなと感じます。

○委員

尼崎の他の計画との整合性が取れていた方が良いと思う。特に、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画がつい最近新しくなったばかりなので、そこで出てきたキーワードとリンクしている方が良いという意見を出させていただいた。特に、「多様性」や「共生社会」という言葉が、介護保険事業計画の中には出てきているので、その辺の言葉が地域福祉計画の中にもあって良いのではないかと思い、このような意見を出させていただいた。

○部会長

他の計画とのリンケージという部分も少し考えるべきではないかという事ですね。これもすごく良い視点で、このような形で各計画とリンケージしていければ、地域福祉計画は上位計画に近い形だと思いますので、そのような内容を配慮していくのも大切だと思う。今まで出ていない「多様性」という言葉ですが、多様性の受容というのは各地で色々出てきている言葉でもあり、尼崎は非常に多様性の受容の経緯や背景というのは脈々と歩んできた中でしっかりと持たれている地域でもあるので、ここら辺のキーワードというのも非常に重要になってくるのかもしれない。

○委員

今日皆様のお話を伺って、やはり分かりやすさに関する意見が多かったが、私自身そこまでの考

えがなかったものの、「地域共生社会の実現を目指して」というフレーズには少し引っかかった。難しすぎて一般の人にうけるのかと思う。

いつも思うのは「安心して暮らせる」というのが1番のフレーズだと思う。「安全・安心」と重ねる方が良いという意見もあり、この重ねる表現はよく出てきており、兵庫県の条例の中にもあったと思う。これを使うかどうかという事で、尼崎らしくするのなら、先ほど皆様がおっしゃっていた色々な意見もあるが、私は他市の地域福祉計画の基本理念を参考に載せていただいている中で1番好きなのが西宮です。「みんながつながり共に生きるまち 西宮」と書いてある。今の案には、どこにも「尼崎」がない。西宮は短くて分かりやすいので、尼崎もこのような表現になればと思う。地域福祉のこの言葉をどうしても入れたいという意見があるかもしれないが、それはまた論議していただいて、皆様で今後進めていただければと思います。

○部会長

本当にそうですね。西宮の特性が最後の西宮の2文字でかなり強調されていると思います。こういったテーマを掲げる時にこれも1つの手法。これだけで西宮に愛着が持てるような気がします。

○委員

長い間民生委員をしており、この「安全・安心」について、「安全」は「地域の安全」で防犯、犯罪の関係などがある。私は「安全・安心」というのは、高齢者が安心して支えられて暮らせることが「安心」と思っている。そして、「共生社会」が皆様難しいとおっしゃられているが、民生委員の中では「共に支え合う共生社会」というようなフレーズはよく使っていた。一般市民の方は理解できないと思うが、「共生社会」はすごく幅があり、中の内容によって違うと思う。先ほど委員がおっしゃっていたように介護現場で働いている方は「共生」や「多様性」という言葉が第一に伝わってくると思うので、一般的に皆様に理解していただこうと思えば、もっと易しい言葉が良いのかなと思うが、私たちはこれで地域に伝えていた。地域が「安全・安心」ということは、障害のある方や高齢者の見守りをしていてそれを肌で感じ、そのような伝え方をしている。「共生社会」が難しければ皆様が考えているような言葉に変えていただいたら良いと思う。私は事務局案が分かりやすいと思ったが、言葉がもう少し易しく分かりやすくするために変えるとしても「安全・安心」は入れておいていただきたい。地域で見守りをしている人間としては、災害や犯罪・防犯もあるので、「安全・安心」は必要と思っている。これもだんだん続いている言葉ですが、継続する言葉も大事なかなと思っています。

○部会長

そうですね。何を継続するかもここら辺で明確にすべきことかなと思います。

○委員

皆様の意見を伺ってなるほどと感じている。やはり共通しているのが「表現」で、ここは押さえておかなければいけないと思う。例えば、知的に障害を持たれた方や、話せるが読むのが苦手な外国籍の方などもアクセスできるような工夫はいると思う。なぜかと言うと、我々側の言語化したもの

が、実は社会の分断を作り出すような原因にもなる。読めないからアクセスできない、アクセスできないという事はケアを受ける側となり、する側と受ける側の関係性をこのような言葉で作ってしまう可能性があるので、そこは少し慎重に考えた方が良いのかなと。誰に宛てての言葉なのか、地域の皆さんと一緒に良い社会を作っていこうという事なら、色々な人がそれぞれの役割をもって社会参加しましょうねという事が、当事者にも届くような表現は外せないのかなと考えている。

あと1点、気になっているのが、時間軸。この基本理念の時間軸を考えた時に、今のことを言っているのか、少し先の事なのか、その先の未来のことを指しているのか、その整理をしておいた方が良いのかなと。他市の例にもあるが、基本理念が何期も続いているという事は未来を想定して考えられたのかなと思ったりもする。SDGsも2030年で終わり、次に何が来るかという事で、例えばWell-beingという、福祉がずっと使っていた「よく生きる」という言葉。時間軸で考えた時に、4期の地域福祉計画ですが、そこに使われる基本理念として、どれ位のスパンで見るといいのかというところの整理の軸も持っていた方が良いのかなと思う。

○部会長

時間軸というのも新しい発想で、この時間軸を考えることによって、皆様と一緒にブラッシュアップしているこのテーマが、どの位の寿命を保つかという事に関わってくると思う。この期だけのものではなく、次の次もバトンを受け取っていただけるのであれば、繋がっていけるような形のテーマにしていければと思う。

まとめないといけないのですが、「⑤ 誰もがその人らしく安全・安心にともに支え合う地域共生社会の実現を目指して」という事務局案を出された時は、これで良いと思ったが、信任するというような形での議論はしなくなかった。唯一言ったのは、「ともに」が漢字でしたので美しい美人や苦しい苦労話と同じだと思い、平仮名にしてもらった。例えば、違う自治体なら「友に」や「伴に」など少しひねったキャッチフレーズのところもあります。このような形で作られてきたのですが、少しだけ事務局の意見を聞いて休みにします。各委員から素晴らしい意見が相次いだと思うのですが、事務局いかがでしょうか。

○事務局

沢山の意見をいただきありがとうございます。気付かされるが多かったなと感じています。事務局としては、この「地域共生社会」という言葉を使わせていただいたのは、法改正があったというのが大きなところ。これも、委員が言われたように、政府の1億総活躍社会というところからスローガンの派生した言葉ではあるのですが、福祉の分野では昔から「共生」という言葉が使われており、それを改めて再認識して整理して提示したものと捉え、こういった言葉を使ったらどうかという事で提案をさせていただいた。

私も第3期から関わらせていただいているのですが、「誰もがその人らしく安心して暮らせる地域福祉社会の実現を目指して」というのが、誰かが用意してくれる地域福祉社会というものを、まさに支える側が用意してくれていた社会を享受するといえますか、そのようなニュアンスにも捉えられるのではないかと考え、一旦「みんなで共に支え合う」というような、支える側と支えられる側の垣根を越えて取組んでいかなければいけないという事を踏まえ、提示させていただいている。

ただ、やはり誰もが取組めるものにしようとなると、市がどのような方向で取組んでいこうとしているのか分かりやすく理解していただくことが大切なのかなと改めて思いましたので、皆様のご意見も踏まえ、基本理念については考えていきたい。

○部会長

各委員の皆様ありがとうございました。今日の意見はしっかりと事務局サイドと部会長・副部会長で吟味させていただき、次になるかその次になるかは分かりませんが、正式に決めて出すのではなく、このような形で考えているというような案を出したいと思います。

皆様の合意形成といいますか、皆様の思いが込められる一文になるかはわかりませんが、今日皆様にいただいた金言を大切にしながら作成していきたいと思っています。またその案は提示させていただきますので、その際は改めてご意見をお願いします。

○部会長

では、後半は次第「3 第4期計画における取組・方向性（案）について」という所です。事務局から説明をいただいて、議論を進めていきたいと思っています。

○事務局

今回は、資料の説明ではなく、いただいたご質問の回答をさせていただき、皆様と共有していきたいと思っています。

まず1点目ですが、追加資料1の「資料2」のNo.1のご質問について、担当課に確認した内容でお答えさせていただきます。

この生涯学習プラザを拠点とした学びの場づくりは、令和元年度からスタートしています。6地区ごとにこのような学びの場づくりを進めており、その中で、それぞれの生涯学習プラザにおいて地域活動をしたいという声や、地域活動をしている人が集まり、どのような取組をしているか共有する場づくりを進めています。一部の生涯学習プラザでは、地域の人が集まり、色々な活動をしたい方の相談にのるような場を作っています。例えば、PTAの方が、制服フリマがコロナで中止になってお困りになられているところを、生涯学習プラザを中心に色々な団体さんと協力し、「おさがり市」という形で、制服などをフリーマーケット形式で販売する等、地域の相談に対応しながら活動が行われています。少しずつではありますが、生涯学習プラザを通じて活動に繋がっている事例が見られているところです。

一方で、コロナ禍という事もあり、なかなか皆で集まる事が難しくなっていますし、そもそも生涯学習プラザで活動や相談にのってくれるという事があまり市民の方々に浸透していないという現状もあります。そういったものをどう浸透させていくのかが、今まさに生涯学習プラザを担当している地域課が苦心する部分ではとっております。それが、ここでいう現状と主な課題です。

また、追加資料2として、「地域情報共有サイト「あましえあ」について」という資料を配付させていただきます。これも、事務局の説明が不足しており、「あましえあ」がどういったものかお伝えできていませんでしたので、今回改めて資料を配付させていただきます。

○部会長

追加資料1ですが、先ほど皆様の意見が載っていた部分で、その2つ目に各委員の質問や意見が載っております。各委員が力を入れている領域からの意見が多く、事務局もしっかり理解されて実際に入れていくというような方針をもたれています。

特に、次回に向けてここら辺を議論すると良いのではという問題提起等ありましたらおっしゃっていただきたい。特に、取組や方向性で、第3期～第4期にかけて色々時代が動いています。簡単に例示すると、この中にもICTなど出ているが、情報についてかなり発展してきている。ただ、逆に言えば情報難民もすごく出てきている。ICTにのっていけない人たちの情報難民という問題は、実は3期の時は考えていなかったが、4期では考えていかなければいけないのではないかな。それでこそちゃんとした地域福祉になるのではないのかなと。

そして、コロナについても、もしかしたら収束していくのかもしれませんが、このコロナによって色々なものがもたらされた。こういった形でのリモート会議もそうですが、これほど自分の地域のどこに住んでいるのかという自覚が出てきたのは、コロナの影響の1つだと思う。

例えば、私は今日事務局に来ているが、前回会議までは県境を越えることができず、来られなかった。自分がどこの自治体で、どこの地域に住んでいて、ワクチンがどの位で回ってくるのかも含めて、地域に対する思いというものはすごく出てきていると思う。そのうちコロナは収束していくと思いますが、これによって地域福祉の重さが出たと思うので、そこら辺の事も考えていくべきではないか。また、危機管理の部分で、今までは災害中心に進めていたが、これも1つの危機管理として必要になってくるのではないのかなと思います。

それから、全体的なことを言わせていただくと、相対的な貧困が全国的にテーマになってきている。完全な、絶対的な貧困ではないが、貧困が各地にまん延している状況がある。そこら辺の貧困というのが、実はあまり尼崎の地域福祉の中では着眼点になってこなかったなと第3期～第4期にかけて少し考えている。活動として、こども食堂は今一旦止まっているかもしれないが、色々な形で尼崎市は頑張っているのだから、そこら辺もテーマとして出てくるべきではないのかなという意見も皆様お持ちだと思います。

○委員

書かせていただいた通り、第3期の色々な活動を継続しながら、今教えていただいた生涯学習や「あましえあ」等の情報について、今期の計画でもそうですし、既に取り組まれているという所をお聞かせいただきました。要は、前回の計画でも今回のアンケートでも、人材不足が大きな声として出たので、こういったサイトや生涯学習プラザなど、地域の大事な拠点を活かして市民がどんどん参画をしながら繋がっていき、自分たちの手で活性化させていくという仕組みが提案できれば、より良いのではないのかなと思う。

○委員

第3期の目標があり、その達成状況の一覧をもらっているが、大半が達成できていないのにうまくいっているように書かれていて、第3期まで頑張ってきたことを捨てて「あましえあ」など新しい事をやり始めようとしている。だから全てが中途半端になっているのではないかな。今あるもの

をブラッシュアップする等、やりかけているものをもっと市民に伝えていく等したほうが良いのではと思っています。変わっていくものは変わっていくと思いますが、目標を立てて、できていないことをできた事にして新しいことをやり始めるのはどうなのか。

○部会長

私も、実は専門分科会の方の第3期計画の点検・評価で、活動評価に関してポジティブすぎると思っていた。地域福祉はできていない事や足りないものから始まるので、そこら辺の課題を整理するところから始めるのがポイントになってくると思っている。避難所がいくつ増えたとかそういう事ではなく、目標がいくつで、どこまで達成できているのか、というところで一度怒ってしまった事があるが、やはり変に過大評価してしまうよりは、逆に言えば問題や課題を沢山出して4期に繋げていく。それこそ委員がおっしゃったようにブラッシュアップをかけていくほうが地に着いた形になっていくのではないのかなと思いました。

○委員

皆様と意見は共通だと思うが、第3期で積み残しているであろう課題について、市民も含めて周知する必要があると思う。分かっているからこそ次の課題に向かって一緒に力を出せまし、情報がしっかり周知されると、次なる人材のリクルートにも繋がると思うので、情報に関する課題にしっかり向き合うことが第3期の課題の閉塞をある程度軽減化する切り口になるのかなと思った。

ですが、情報難民や情報弱者など、情報の問題という事でとりあえず捉えると、基本的にインフォメーションに関わる問題はコミュニケーションの問題。情報を手に、誰と繋がり、ネットワークするか、という事を課題として挙げている方も多かった。その部分も、この尼崎の福祉の領域でいうと「支え合いの人づくり」で、それをどのようにして、どんな現状で、今後どうするのか、を今後しっかり明確化できればと思いました。

市役所の庁舎内の連携や分担はよく分からないが、制作部の中にある広報課で情報の共有をしている取組と、協働部の中の協働推進課の情報の共有や広報はどのように仕分けされているのか、常々連携しているのか、外から見ているとよく分からない。例えば、第3期の点検・評価に関する資料のP42の情報に関する148番目の事業について、「市報やHPで情報公開するのは各担当課でやります」という事で中身は空欄になっているが、こうしてしまうと結局バラバラになり、情報はあるが伝わらず、リンクもされないまま終わってしまうのではと思う。その辺りの見通しを、本当に「あましえあ」というWebサイトだけで良いのかも含め議論できると良いのかなと思いました。

○委員

私も、前の計画で見直しの所から新しい案が出てきているので少し気になったこともありましたが、内容が全て変わっているものもあれば、継続のものもあるが、そういった意味ではできていないものをしっかりやるというのも良いのではと思う。

それから、「あましえあ」の話もどこで担当され、どこでまとめてくださるのか、関係者専用サイトの使い方も誰かが間に入って管理をされるのか、書き込みたい人はどこまで書き込んで良いのか、使い方や情報の発信の仕方など少し分からない部分がある。届かない所は届かなかったりすると思

うので、縦割りの所がどこまで横割りになって地域情報共有サイトになるのかなと感じる。

もう1つは、どこの報告でもそうですが、地域福祉ネットワーク会議や地域福祉専門員など色々な文言が出てきて、きっと用語解説のようなものは付けていただけたらと思うが、初めて見る方には分からない言葉も多いと思い、その辺は分かりやすくしていただけたら良いなと思いました。

○部会長

やはり分かりやすさといいますか、資料についても解説が必要な部分は解説が必要だと思いますのでそこら辺の配慮は増えてくると思います。

○委員

私も情報の所が気になっていて、基本目標 1-(1)福祉学習の所で少し書かせていただいたが、ICTをどんどん活用し、今までなかなか参加できなかった人がボランティアにも参加していただけるような状況が起こってはきている反面、ICTを使えない方は情報を取れないという状況にもなっています。そのような方々に対して、コミュニケーションが取りづらい場合にどのような事ややっていくのか、そこら辺も入れていっていただくのが計画ではないのかなと思っている。

あとは、権利擁護の事が少し載っていたが、成年後見制度に関しては非常に重要な制度だが、必要な方に行き渡っていないのではという所もある。どのような形で効果的にやっていくのかという所は考えていくべきではと思っております。

○委員

「あましえあ」が本当に使いやすいサイトになればと思う。新しい事をどんどんしていくのが悪いことだとは思わない。手当たり次第やってもいいとは思いますが、それがどんどん精査され、分かりやすい形での改善で、使いやすく取っ付きやすいものであれば良いなと思います。

できるだけ、トップだけが考えているのではなく、できれば子どもにも分かりやすくなれば良いのかなと。とりあえず、取っ付きにくくならないような形で改善していけば良いのではないかなと思います。

○委員

様々な意見が出たが、まずは今までの総括をしっかりやり、その上で次に進むことが必要なのではと思っている。

最近では、ICTを使って云々という事もあるが、私たちのような高齢者は情報難民というものが非常に懸念される。例えば、それぞれの地域でのリーダーとなっている方も、どこもかしこも高齢化してきて情報難民に近い形になってくる。

それをどのようにして少なくしていくか、分かりやすく使いやすくしていくかが今後は非常に大切になってくるのではないか。「あましえあ」には今まであまり興味を持っていなかったが、これからどのような形でやっていくのかを楽しみにしていきたいと思っております。

そして、このコロナ禍で地域で気にしているのは、高齢者が出歩かないことによって認知症が進んだり、健康を害するような事が恐らく起こってきているのではないのかなということ。それをど

うしていくののかも1つの課題かなと思っております。

○部会長

ありがとうございました。

○事務局

福祉部長です。本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございました。皆様の基本理念の思いや成果・課題についてのご意見をお伺いさせていただきました。本日色々なご意見があったことを受けて事務局としても作業を進めていき、皆様と意見交換をしていきたいと思っております。

○事務局

今回いただいた様々なご意見に関しましては、地域福祉計画の庁内推進会議という全庁的な会議体がございますので、そういったところで各委員のご意見も共有させていただき、取組めるものの整理をさせていただきます。できる限り皆様のご意見が施策に反映されるように進めていきたいと考えております。

○部会長

それでは、尼崎市社会保障審議会地域福祉専門分科会第5回計画策定部会を閉会とさせていただきます。お疲れ様でした。

以 上